さんにち NIE ワークシート　　山梨日日新聞

年　　組　名前：

村広報発行 月1回に増

丹波山 サイズ、中身も刷新

見やすく／ごみ収集日掲載

丹波山村は４月号から、季刊だった村広報を月１回発行する。大きさをＡ４判からタブロイド判に変更し、見やすさも重視。木下喜人村長のコラムなど新コーナーも始めた。回覧板でその都度、用紙を配り伝えてきたごみ分別収集日の日程などの生活情報も掲載し、住民の負担軽減も図る。〈竹川元久〉

リニューアルした「広報たばやま」（右）と旧広報＝丹波山村役場

村総務課によると、これまで広報は5、8、11、2月の年4回、Ａ4判で発行してきた。話題が既に古い場合があり、紙面が小さめで高齢者は読みにくい面があった。

村は〝紙面改革〟を検討。総務省の地域活性化起業人制度を活用し、西の風新聞社（東京都）の協力を受けることにした。同社は紙面のレイアウトを手掛け、取材は同村の広報担当職員と担う。

タブロイド判の第1号は全4ページ。1面トップに写真を大きく掲載。保育所の多目的スペースの完成式で園児と木下村長がテープカットする様子を紹介した。下段に、いずれも新企画で、村のマスコットキャラクター・タバスキーの活動を伝える「今月のタバスキー」と村長のコラムを並べて掲載した。

2面以降で、村の取り組みや行事など従来通りの情報を伝えている。ごみ収集の日程表は紙面半分のスペースを使って、見やすさを心がけた。

400部印刷し、全戸に配布する。総務省の制度活用は最大で3年間。発行回数は増えるが、事業費は印刷代のみの年間85万円ほどで、編集業務を委託していた従来の約120万円より安価に抑えられるとしている。

同課は「レイアウトなどの技術も習得し、職員が一連の作業を担えるよう目指したい。高齢者が多い地域には、やはり紙の媒体は欠かせない」としている。

（2026 年 4 月 15 日付 山梨日日新聞 14 面）

問1 丹波山村は、村広報を刷新しました。どのような変更をしましたか。

問2 以前の村広報のデメリットを、2つ答えてください。

・

・

問3 刷新した村広報では、村長のコラム以外に、なにを新企画として始めましたか。

問4 変更したことで年間経費は、いくら削減できますか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2026 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.